

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671200364		
法人名	株式会社ケアトラスト		
事業所名	グループホームメイプルリーフ宇治(なでしこ)		
所在地	京都府宇治市榎島町本屋敷10-1		
自己評価作成日	令和元年7月13日	評価結果市町村受理日	令和元年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2671200364-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年8月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

支え合い、自立、開放、前向きの方針に基づき、利用者の意向にそったケアが、提供出来るように努めている。利用者の意向にそい、個別外出にも力を入れている。月に1回は必ず全体の外出レクを企画し、気分転換を図っている。ご家族を招待しての敬老会等も開催している。ご家族の協力のもと終末期ケアにも取り組んでいる。室内レクの充実に努め、利用者参加型のおやつレクにも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、利用者一人ひとりの事を考えながら寄り添い関わる中で、職員間で話し合い出来る事や趣味が続けられる環境を整え楽しく今までの生活が継続できるように支援しています。また、職員の離職も少なく10年以上勤務している職員もあり、毎年行われる全国グループホーム協会主催の症例研究に取り組み、利用者と同じ向き合うことで問題点や課題を話し合い穏やかに生活ができるように利用者本位の支援に取り組み、様々な関わりを1年間行う中で得られた良好な結果を発表しています。多くのボランティアの訪問もある中職員で構成された音楽隊が地域のサロンでも演奏会を行うなど地域との交流も行っています。また、重度化した場合も本人や家族の思いを受け止め家族や医療関係者と協力し終末になっても自分らしく生活できるように話し合い支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り上げ、誰の目にも付きやすいように玄関に掲示している。ユニット内にも目につく場所へ、理念を掲示している。理念を基に目標を持ち行動している。	法人理念を基にユニット毎の目標を設定しています。職員間で前年度の目標について振り返り、問題点や課題などを話し合い考察し次に向けてステップアップするために新たな目標を毎年立てユニット内に掲示し、利用者本位の支援になっているか考え実践に繋げるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	メイプルリーフ宇治の音楽隊(スタッフ)が各事業所や地域のサロンに参加し、バイオリン演奏を披露している。	民生委員を中心に行われている高齢者向けのカフェの開催時には利用者も参加し、併設されている事業所で行われるカフェには地域の方が参加し交流しています。近隣の保育所の運動会や作品展の見学に行き、また事業所の秋祭りには招待し参加が得られています。小中学生の体験学習の受け入れを行うなど子どもたちとの交流を行い、近隣のドラッグストアで行われるイベントにも参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域のサロンに参加している。説明会などを催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的に報告し、家族代表者、地域の方等、様々な視点から意見を頂き、サービス向上に活かしている。宇治市職員の参加も要請している。	会議は家族や民生委員、地域包括支援センター職員や市職員等の参加を得て2か月に1度開催しています。利用者の状況や行事をスライドを用い報告したり、職員研修や事例研究会のポスターセッションの取り組み等について報告し意見交換を行っています。参加者から事故やヒヤリハットの報告や対策へのアドバイスがあったり、食事についての質問があり献立を掲示するなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者等が、市担当者と会う機会を作り、相談等を行っている。	運営推進会議の議事録や事故報告等を直接出向き提出しています。運営推進会議に市職員の出席もあり事業所の状況を知ってもらい、わからないこと等があれば気軽に相談したり確認できる関係が築かれています。また、介護相談員と市職員、事業所との三者面談も行っています。研修案内もあり職員の希望も聞き参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の理念にも基づき、開放的なケアに努めている。帰宅欲求が強いご利用者がいる場合でも、その原因を追究し安易に鍵をかける様なケアはしていない。毎月主任研修時、ケア内の報告を行っている。	身体拘束に関する研修は年に2回あり、また毎月行われる主任会議でも話し合った内容を職員に伝え現状では身体拘束に繋がるケアは行っていませんが、擬態的な内容を学んでいます。日中は施錠せずユニット間は自由に行き来しています。外に出たい様子が見られた場合は職員が付き添い外気浴をしたり散歩に出かけるなど拘束感を感じないよう支援しています。	

グループホームメイプルリーフ宇治(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体として、虐待の防止に関する研修により学ぶ機会が設けられている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーダー研修の時に権利擁護に関する制度の研修を行った。メイプルカフェでも成年後見人制度について行政書士の講習を受け、現場職員も参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護支援専門員が、御家族が納得するまで、説明、話し合いを行っている。現場スタッフも介護支援専門員に密に連絡報告を行っており、説明がスムーズに行えるよう支えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回、ケアプラン説明時に機会がある。介護相談員、外部評価、運営推進会議を取り入れ、機会を設けている。	利用者の意見や要望は日々支援をする中で聞いており、家族には毎月の便りで利用者の様子を伝えたり、面会時には直接意見を聞いています。今までの趣味を継続できるようにしてほしいとの意見を受け職員間で話し合い全ユニットでレクリエーションの一環として取り入れたり、体操の時間を作るなど出来ることは速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員会議があり、意見交換をし、取り入れている。また、定期的に常勤勉強会、職員面談を行っている。また、ユニット会議にも参加し、職員の意見を聞くようにしている。	毎月行われるユニット会議の他、日々の業務内でも職員の意見や提案を聞いています。特にレクリエーションや外出企画や提案は職員主導で検討を行い実践に繋げています。管理者は随時意見や思いを聞く機会を作り、仕事がしやすい環境づくりに努めています。また法人より定期的な面談があり思いや要望を聞く機会があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤は年2回の面談と、自己評価の提出をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月ごとに常勤で事例研究の勉強会を行っている。外部の研修に積極的に参加している。報告書を提出することで振り返りをしながら次の業務へ活かしていく。		

グループホームメイプルリーフ宇治(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属し、勉強会や職員の交換研修に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話を多く持つ様にし、何を思っているのか、どうしたいのか等、聞き出せるように努めている。日々の会話の中で聞き出すこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時には、会話を持つようにし、話しやすい雰囲気を作るように努めている。連絡を密にとる為必要時には電話をし、速やかに情報が伝わるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際に、必要であれば他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人を尊敬し、色々なことを教えてもらっている。学ばせてもらう気持ちを大切にしている。お礼の言葉も忘れず伝えようとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会話の中に若い頃や家族との思い出などを話していただくなどで絆を大切にしていこう努力している。年に一度は、ご家族を招き交流会を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小規模多機能型居宅介護を利用していたご利用者については、共にレクリエーションをしたり、おやつ作りをする機会を作っている。ドライブで子供の家に行ったりすることもしている。	近隣から入居した利用者も多く家族以外にも友人の面会もあり、居室に案内しゆっくり過ごせるように支援しています。中には月に1度友人と食事会をしたり家族と馴染みの美容院に行ったり、自宅に定期的に宿泊する方もいます。暑中見舞いや年賀状の準備をするなど今までの関係が途切れないように支援をしています。	

グループホームメイプルリーフ宇治(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に外出する機会を作ったり、会話に巻き込んでいき、他利用者と関わっていけるように気をつけている。集団レクの提供時に共同作業をされる場面が多く見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約終了後に、継続して関わりを持っている利用者はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、思いや意向の把握に努めている。一人一人を尊重し、希望や意志を大切にしている。個別レクにも力を入れている。	入居前には自宅や病院などに出向き、生活状況や習慣、思いや希望などを聞くと共に家族に生活歴を含め情報を記載してもらい本人や家族の思いの把握に繋がっています。また、今まで関わっていた担当者からも情報を得てアセスメントを行い入居前に職員と情報の共有を行い、入居後は日々の関わりの中から利用者の思いをくみ取り記録に残し会議等で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方にセンター方式の生活歴等の記入をしてもらっている。本人、家族の方から、これまでの生活について、会話の中で聞いている。昔のアルバム等を借り、その方の暮らしや遊び方についても教えて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日どのように過ごしていたか、様子等を個別ケースに毎回記入し、月一回のケース会議、又は、必要時に意見交換している。申し送りを徹底して行っている。一日の申し送りを夜勤者が次の出勤者へ伝えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の意向を取り入れ、ケース会議で全スタッフがモニタリングや課題分析を行ったものを計画作成者がまとめ作成している。	本人や家族の思い、アセスメントの基介護計画を作成し、初回は1ヶ月で見直し状況に変化がなければ6ヶ月毎に計画の見直しを行っています。2か月毎にモニタリングを行い、見直しに当たっては本人や家族、医師、看護師の意見を改めて聞き、再アセスメントやサービス担当者会議を行っています。職員は情報を共有し計画に沿った記録がなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤者は、必ず一日の様子等を個別ケースに記入、確認し、情報の共有に努めている。また、その記録と職員の意見を元にケアプランの見直しを行っている。		

グループホームメイプルリーフ宇治(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急を要する場合の病院受診の付き添いや要望に応じたレクレーションの提供に努めている。定期受診の際、ご家族の車への移乗をスタッフがこなしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で生活していけるよう外出に力を入れている。また地域資源は現在、模索中である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医による月2回の往診、必要時には相談、往診してもらっている。入居前からのかかりつけへ通っておられる方もいる。外部のかかりつけ医に日頃の様子を伝えるため、連絡ノートを作っておりアドバイスももらっている。	入居時に今までのかかりつけ医を継続出来る事を説明しています。協力医の往診は、月に2回あり24時間連絡が取れ相談が出来る体制が構築されています。専門医への受診は家族が同行し連絡ノートで情報を共有していますが、場合によっては職員が同行することもあります。月に1回訪問歯科による治療や口腔ケアは全員が受けており、希望に応じ訪問リハビリを受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	馴染みの看護師と24時間連絡が取れる体制になっている。小規模の看護師にも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携室と相談しながら、病状の把握や早期退院に向けた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプランの作成時にご家族の意向を確認している。また、ご本人の意思の確認も行っている。方針を立て、ケース会議で統一したケアができるよう取り組んでいる。「私の想い」事前指示書も記入に向けて動いている。	入居時に重度化した場合の対応について指針を基に事業所でできることを説明し、最期まで自分らしくあるために「わたしの思い」を书面確認していますが、重度化した場合には医師から家族に状況を説明してもらい、事業所と3者で話し合い方針を決めています。家族には面会を増やしてもらう等の協力を得て、利用者の変化に伴い家族の思いも確認しながら看取りの支援をしています。看取りを経験し、ケース会議で話し合い振り返っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習を受けている。		

グループホームメイプルリーフ宇治(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。災害時には、地域住民に協力をお願い出来るように文書を出している。夜間想定訓練も実施。ホール内に避難用具を置き、すぐに使用できる状態にしている。	消防訓練は年に2回昼夜想定で実施し、内1回は消防署の立会いの下夜間を想定し初期消火から通報、利用者も参加して避難訓練を行っています。運営推進会議の日程に合わせて訓練を行うこともあります。また、水害時に備えた避難訓練も実施していますが、実際に災害が起きた時にどのように伝えれば利用者が認識できるかを思案しています。備蓄の準備もあります。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや居室でのドアを開ける際はノックをしている。又、丁寧語や尊敬語を使うように徹底している。	接遇や人権についての研修は本社で年1回と事業所でも年に1回実施しています。利用者には基本的には敬語で丁寧な言葉遣いを行うように指導しています。不適切な対応があれば個別に注意を行い尊厳を忘れないように指導を行っています。同性介助を希望する場合には出来るだけ要望に応え羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が食べたいか、どこに行きたいか等、リクエストを聞いたり、服を選んでもらったりしている。何かをするときは、尋ねて意思を確認するようにしている。食事・献立作りにも参加を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活できるように努め、外出希望がある方には、できる限り応じるように心掛けている。日常の会話で今日はどう過ごすかの希望を聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床時にご本人に選んでいただいている。外出時には、お化粧を促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、野菜の皮むき、味付け、盛り付け、後片付けをして頂いている。一緒に買い物に出掛け、選んだ食材をメニューに追加している。野菜を育て、採れた野菜と一緒に調理する。	毎日の献立は冷蔵庫の中の食材を見て利用者と相談しながら決めていきます。下ごしらえや盛り付け、配膳、後片付けも出来る方は一緒に携わり、プランターで育てた野菜もメニューに追加されています。季節に合わせた料理を作ったり駐車場でバーベキューを行い、定期的な外食、手作りのおやつ等食事が楽しみになるように工夫しています。医師の許可を得てアルコールの提供も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが、主に皆様の好きな食材を考慮し、一日のバランスを考えながら支援を実施している。水分はお茶やコーヒー、スポーツドリンク等を提供している。		

グループホームメイプルリーフ宇治(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後は口腔ケア。毎食後は食膳の水分補給をしている。また月2回の訪問歯科時に衛生士より口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方のみ、定時トイレ誘導を行い、排泄のタイミングをつかみトイレでの排泄ができるように促している。全利用者の排泄チェック表を作成し、役立てている。	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、個々のタイミングでトイレに行けるよう支援しており、夜間のみポータブルトイレを使用している方もいます。布の下着を使用している方は出来るだけ今の状態が維持できるように支援し、排泄用品の選択や使用方法の研修も受け日々職員は支援方法を検討し情報を共有することで自立に向かうように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫をしている(食物繊維を多く含む食材の提供など)。腹部マッサージを行う。ホットパック、ホットミルクを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、時間帯の希望がある方にはそれに応じている。菖蒲湯やゆず湯等も提供している。	週に3回は入浴してもらえるよう支援しています。入浴を拒否する方には時間を変更するなど、様々な関わりを試し無理のない入浴ができるように配慮し、場合によっては家族の協力を得た事でスムーズに入浴につながった方もいます。重度の方も二人介助で湯船に浸かれるように支援したり季節のしょうぶ湯たゆず湯で入浴を楽しんでもらえるよう工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間にできるだけ活動を促し、夜間ゆっくり眠れるように心がけている。疲れているときは、昼寝を促す。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報シートを使用している。服薬管理表のチェック。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、買い物、調理等本人の好みに合わせてしていただいている。生け花サークルへの参加者もいる。お孫さんへのプレゼント作りも定期的に行っている。		

グループホームメイプルリーフ宇治(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	集団での外出にこだわらず、個別に希望を聞くようにしている。喫茶店やスーパー等へは日常的に出かけている。百貨店やカラオケにも出掛けている。	毎日のように買い物や散歩、ドライブに出かけています。利用者の希望を聞き百貨店や外食などの個別外出やユニット毎に外出の企画を毎月行い実践に繋げ、家族も誘い水族館や映画村等に出かけています。季節に合わせ初詣や梅、桜、紅葉コスモス等の花を見に行ったり、弁当を持って琵琶湖に行くなど日頃から外出の機会を持ってように取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけたとき、本人が選び、支払いができるように見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望をかなえるように支援している。精神的に落ち着いて頂けるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	机の上に季節の花を置き、季節感を楽しんでいただく工夫をしている。又プランターで野菜を育てている。その月に合った植物や生き物を壁画にしている。	共用空間は換気や掃除を毎日行い、季節に合わせて湿度や温度を管理し、採光角度を考慮し簾など使い調整しています。ユニット毎に毎月利用者と一緒に折り紙で作った壁飾りの作品は季節感が感じられるよう配慮しています。リビングのテーブルではそれぞれの趣味を楽しんだりソファでくつろぐ等利用者の生活状況に合わせ、心地よい場所を選び過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士の席を近くし、コミュニケーションをとっていただいている。一人の時間を過ごしたい方は個人の個室へ誘導を促す。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具を持ってこられたり、仏壇を持ち込まれる方もいる。居室の模様替えなどは、本人と共に行う。お気に入りのご家族、本人の写真を飾っている。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう説明し、家族に配置してもらいたいタンスや棚、鏡台、大切にしている仏壇などの他、趣味の麻雀台や囲碁、ギターなどを持参している方もいます。家族や孫等の写真を飾ったり毎日利用者と共に換気や清掃を行い、思い思いに過ごせる居室となっています。また、希望により畳を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応。居室の前に表札を掲げている。		